

奇異ナル網膜血管之變状ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38476

十全會雜誌

(第五拾號)

明治四十一

原著及實驗

○奇異ナル網膜血管之變狀ニ就テ

(附、第一圖版一圖)

(明治四十一年四月一日福岡醫科大學ニ於ケル日本眼科學會總會所演)

特別會員
醫學博士

高安右人

(澤金)

明治三十八年五月、一婦人ニ就テ未ダ曾テ見聞セザリシ甚ダ奇異ナル網膜血管ノ變狀ヲ有スル眼病ヲ實驗シ當時直ニ之ヲ報告セント欲セシモ成ルベキハ猶其轉歸等ヲモ見定メテト思フ内患者來院セザリシヲ以テ遂ニ荏苒今日ニ及ベリ然ルニ頃日再ビ診スルノ機會ヲ得タレバ茲ニ之ヲ報告スル事トナセリ

林 某 二十二才ノ妻女 初診明治三十八年五月八日

既往症 昨年九月初旬頃ヨリ両眼共ニ漸次視力減退シ視界甚シク朦朧トナリ時々眼球結膜ニ充血ヲ呈スルコアリ爾來本年二月迄醫治ヲ受ケ視力大ニ恢復セリ然ルニ三月廿五、六日頃ヨリ右眼再ビ漸次視力減退シ十日ヲ經テ左眼ニモ發病スルニ至レリ患者別ニ婦人科的又ハ著明ノ内科的疾病ニ罹リシコトナシト云フ

現症 外見上左右共ニ異狀ヲ呈セズ瞳孔ハ僅ニ散大シ反應遲鈍ナリ眼底ヲ檢スルニ右眼ハ透明部ニ異狀ナキモ網膜血管ニ著シキ變狀アリ則チ乳頭ヲ去ルニ二三密迷ノ所ニ於テ血管側面ヨリ分枝ヲ生ジ互ニ吻合シテ輪狀ニ乳頭ヲ圍繞ス之ヨリ放線狀ニ分枝ヲ出シ其分枝ハ發起部ヨリ僅ノ間ハ非常ニ幽微ニシテ辛フジテ管線ヲ認ムルモ其次デ殆ンド瘤狀ニ膨脹シ其先端ハ漸々纖弱トナリ或ハ他ノ分枝ト吻合シテ更ニ第二ノ輪環ヲ生ジ或ハ又盲囊ニ終ル者アリ而シテ或時ハ血液ヲ以テ甚シク滿タサレ或時ハ少ナク滿タサル、ガ故ニ同一ノ血管ニシテ或時ハ非常ニ膨大シ或時ハ見難キ程ニ甚シク狹小ナルコトアリ而シテ乳頭近部ノ血管ハ多少硝子体中ニ隆起スルモノアリ乳頭ハ著シク充血シ其近部又ハ周圍部ニ於テハ輕度ノ溢血ヲ見ル上記血管ノ變狀ハ主トシテ動脈ニ存セリト雖靜脈モ亦之ト吻合シ靜脈血ヲシテ動脈内ニ灌流セシムルモノ、如シ、左眼ヲ檢スルニ大体右眼ノ如クナルモ血管多數ニシテ且乳頭近部ニ稍高度ノ出血アリ凝血ト血管ト混乱シ甚ダ複雑ヲ極メ爲ニ其詳細ヲ記述スル克ハズ寫生モ亦一層困難ナリシヲ以テ遺憾ナガラ之ヲ省畧セリ

視力左右

0.5m.t.
F

尿ニ異狀ナク内科診察ヲ受ケシメタルモ何等ノ異狀ナカリキ

患者ハ十一日ヨリ入院治療ヲ受ケ

診斷ハ假ニ出血性網膜炎トシ試ミニ沃臭剝ノ内服結膜下食鹽水注射ヲ行ヒシニ眼底ノ所見ハ別ニ回善ノ摸樣ナキモ視力ハ一時少々善良トナレリ

全月廿五日 右視力 $\frac{2m.t.}{60}$ 左視力 $\frac{1m.t.}{60}$ トナレリ

六月十一日ヨリ食鹽ヲ止メ「ピロカルピン」發汗注射ヲ始ム

六月廿四日 右視力 $\frac{3m.t.}{60}$ 左視力 $\frac{1.5m.t.}{60}$

七月初頃ヨリ左右ノ瞳孔非常ニ開大シ反應全ク消失ス内壓少シク亢進シ眼球稍硬ク鞏膜變色屍眼狀ヲ呈ス然レモ別ニ疼痛ナカリシ

七月十一日 右視力 $\frac{2.5mt.}{60}$ 左視力 $\frac{2mt.}{60}$

七月十四日 左眼ニモ亦「カタラクト」ヲ發ス

七月十八日 家事ノ都合ニヨリ退院シ時々來院セリ

七月廿一日 右視力 $\frac{50cm.}{60}$ 左視力 $\frac{1mt.}{60}$

八月二日 全全 $\frac{90cm.}{60}$ 全全 $\frac{1mt.}{60}$

九月廿日 再入院左眼「カタラクト」抽出チ行ヒシモ視力更ニ恢復セズ三週間計ニシテ退院セリ

◎爾來患者來院セズ更ニ其消息ヲ得ザリシガ明治四十一年二月二十五日再ビ來院セルヲ以テ之ヲ檢セシニ左眼ハ網膜剝離チ起シ眼球萎縮ニ陥リ形稍不正トナリ少シク后方ニ陷没ス右眼ハ依然瞳孔非常ニ散大シ虹彩ハ狭キ輪トナリテ周圍ニ存在ス水晶體ハ乳狀ニ濁濁シ幾分膨大セルガ如シ内壓非常ニ減退ス視力ハ兩眼共ニ二ケ年以來全ク消失シ明暗ヲモ辨シ能ハザルニ至レリト云フ故ニ右眼モ亦必ズ網膜ノ剝離ヲ致シ眼球萎縮ニ陥リシモノト斷定シ患者ニ治療ノ効ナキヲ論シ歸宅セシメタリ

上記ノ病症日誌ヨリ簡單ニ其要點ヲ摘録スレバ次ノ如シ

發病ハ患者二十一才ノ時ニシテ一見肺結核患者ニ見ル顔貌ナリシモ更ニ内科的疾疾病ナク經過中亦更ニ病理的變化ヲ呈セズ嘗テ經過シタル虹彩炎ノ証跡、又梅毒ノ徵候等ヲモ更ニ發見スル克ハズ

本病ハ兩眼ヲ侵シ明治三十七年九月發病シ三十八年七月初旬ヨリ「カタラクト」ノ繼發ヲ見、同年末ニ至リ網膜剝離ヲ起シ發病后僅々一年余ニシテ全ク失明セリ

其特異ノ變化ハ網膜血管ノ吻合ト其瘤狀膨大ニシテ他ハ皆之ニ續發セシ變化ナルベシ

ヒッペル氏ハ一千九百零四年グレーフェ氏寶函第五十九卷ニ於テ「一ノ甚ダ稀ナル網膜ノ疾病ニ就テ」ト題シ其二例ヲ掲載セラレタリ之ノモノハ多少予ガ一例ニ類似スル所アリト雖モフックス氏ノ網膜動靜脈瘤 (Archiv f. Augenheilk. Bd. XI. P.440.) ヲタングス (Virchow's Archiv Bd. 50.p.38) ナイタル氏 (Archiv f. Augenheilk. Bd. 38. P.157)

等ノ實例ハ大ニ異ル所アリ史學中未ダ予ノ實例ト全然一致スル者ヲ發見スル能ハザルナリ

抑該病ノ本態ハ何者ナリヤ之ヲ決定スルニ甚ダ苦シム所ニノフックス氏ノ所謂外傷性動靜脈瘤ニ屬セズ又ヒッペル氏ノ極徐々ニ經過スル單ニ炎症の疾病ニモアラズ恐ラクハレブラート氏ノ說ノ如ク先天性網膜動靜脈瘤 (Anenry's ma arterio-venosum retinae) ニシテ初ハ別ニ視力障害等ヲ呈セザルガ故ニ發見セラレザルモ身體發育期ヲ超ユレバ多少營養ニ變化ヲ來シ且動靜脈混血ノタメ先ヅ血管壁ニ障害ヲ起シテ其軟化擴張ヲ惹起シ其鬱積出血ニ因リ又慢性ハ綠内障ヲ繼發シ爰ニ視力甚シク減退スルニ至リ初テ發見セラル、ナルベク、又網膜剝離、白内障等ノ續發ニ因リ遂ニ全ク萎縮ニ陥ルモノナランカ敢テ識者ノ教示ヲ請フ

眼底製圖ニ就テハ元金澤病院醫員醫學得業士中島喜作氏ニ對シ深ク謝意ヲ表ス

附 圖、—— 第 壹 圖 版

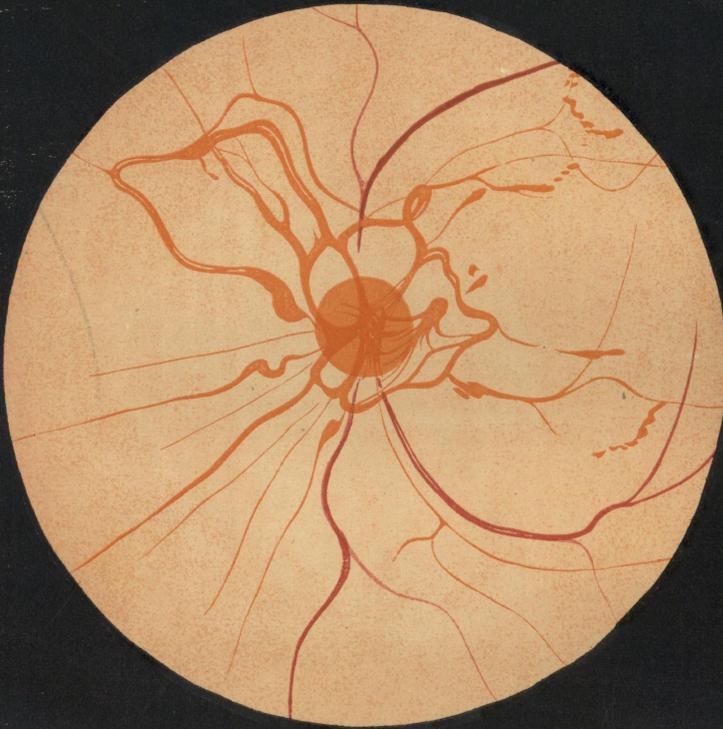
林 某

右眼底倒像圖、

明治三十八年五月十四日寫之

(明治四十一年四月一日受領)

第 壹 圖 版



(明治三十八年五月十四日寫)



林 某 (女 二 十 歲) 右 眼 底 倒 像 圖